

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 次の文章を読んで、4ページから7ページの問い(問1~4)に答えよ。ただし、商品売買取引は3分法によって記帳している。なお、金額の単位は、別途指示している箇所を除き、すべて千円である。また、()は各自で考えること。

商品の仕入れや売り渡しの際、さまざまな方法によって商品や代金の授受が行われる。取引先から受け取った納品書や領収証、取引先に渡した小切手や手形の控えなどが取引の事実を証明するものとなる。これらは、 とよばれる。

取引は、 にもとづき、仕訳帳に記入する場合もあるが、一定の形式を備えた紙片に記入する場合もある。この紙片を伝票といい、伝票に記入することを という。

伝票から総勘定元帳への転記には、一枚の伝票ごとに総勘定元帳の各勘定口座に転記する()転記がある。また、毎日あるいは毎週・毎月の末日に、伝票を分類・集計して仕訳集計表を作成し、そこから総勘定元帳の各勘定口座にまとめて転記する 転記もある。

問1 ~ に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

<input type="text" value="ア"/> ~ <input type="text" value="ウ"/> の解答群		
① 附属明細書	④ 登 記	⑦ 定 款
② 証 ひょう	⑤ 個 別	⑧ 起 票
③ 開 始 記 入	⑥ 公 債	⑨ 二 重
④ 振 替	⑦ 合 計	

簿記・会計

問 3 次の(1)~(3)の伝票は、名古屋商店の取引を、3伝票制(商品売買取引は、すべていったん掛け取引として処理する)によって作成したものである。

・, に入る最も適当なものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。また、に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(1) 鹿児島商店に対する売掛金 ¥ 300 を、同店振り出しの小切手で受け取った。

<input type="text" value="キ"/>	伝票 No. 9
1月6日	
売掛金	300
(鹿児島商店)	

(2) 金沢商店より商品 ¥ 400 を仕入れ、代金のうち ¥ 100 は現金で支払い、残りは掛けとした。

振替伝票(借方) No.36	振替伝票(貸方) No.36	出金伝票 No.12
1月8日	1月8日	1月8日
<input type="text" value="ク"/>	400 () ()	買掛金 <input type="text" value="ケ"/> 00
	(金沢商店)	(金沢商店)

(3) 商品 ¥ 220 を売り渡し、代金として鳥取商店が発行した商品券 ¥ 220 を受け取った。

振替伝票(借方) No.42	振替伝票(貸方) No.42	振替伝票(借方) No.43	振替伝票(貸方) No.43
1月20日	1月20日	1月20日	1月20日
売掛金	220 () ()	<input type="text" value="コ"/>	220 () ()
(鳥取商店)			(鳥取商店)

・, の解答群

- | | | |
|---------|-------|-------|
| ① 買掛金 | ② 売掛金 | ③ 現金 |
| ④ 仕入 | ⑤ 入金 | ⑥ 出金 |
| ⑦ 振替 | ⑧ 売上 | ⑨ 商品券 |
| ⑩ 他店商品券 | ㉑ 未収金 | |

問 4 次の為替手形は、商品 ¥ 200 を仕入れた際に、代金支払いのために振り出したものであり、売掛金のある得意先の引き受けを得て、仕入先に渡したものである。この為替手形に関する平成×5年4月12日の各商店の仕訳は、下のとおりである。〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕に当てはまる商店名の組合せとして正しいものを、後の解答群のうちから一つ選べ。 サ

No.14	為替手形	K08310	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 収入印紙 一千郎葉 </div>	住所 神奈川県横浜市中区横浜町1の1 横浜商店 横浜太郎 殿		支払期日 平成×5年5月12日 支払地 神奈川県横浜市 支払場所 東西銀行横浜支店
	金額 <u>¥200,000</u> ※		引受 平成×5年4月12日 神奈川県横浜市中区横浜町1の1 横浜商店 横浜太郎 殿
	前橋商店 前橋花子 平成×5年4月12日 拒絶証書不要 振出地 千葉県千葉市 住所 千葉県千葉市中央区千葉町1の1 振出人 千葉商店 千葉一郎		

(注) 為替手形中の金額の単位は円である。

- 〔Ⅰ〕 商店：(借) () 200 (貸) 売掛金 200
- 〔Ⅱ〕 商店：(借) () 200 (貸) 売上 200
- 〔Ⅲ〕 商店：(借) 買掛金 200 (貸) () 200

サ の解答群

- ① 〔Ⅰ〕 横浜 — 〔Ⅱ〕 千葉 — 〔Ⅲ〕 前橋
- ② 〔Ⅰ〕 横浜 — 〔Ⅱ〕 前橋 — 〔Ⅲ〕 千葉
- ③ 〔Ⅰ〕 千葉 — 〔Ⅱ〕 横浜 — 〔Ⅲ〕 前橋
- ④ 〔Ⅰ〕 千葉 — 〔Ⅱ〕 前橋 — 〔Ⅲ〕 横浜
- ⑤ 〔Ⅰ〕 前橋 — 〔Ⅱ〕 横浜 — 〔Ⅲ〕 千葉
- ⑥ 〔Ⅰ〕 前橋 — 〔Ⅱ〕 千葉 — 〔Ⅲ〕 横浜

簿記・会計

B 株式会社に関する 8 ページから 10 ページの問い(問 1～4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。また、()は各自で考えること。

問 1 株式会社の設立手続きを完了し、設立のために発起人が立て替えていた諸費用 ¥ 50 を、小切手を振り出して支払った。この取引を仕訳した場合の借方の勘定科目は、 である。 に入る最も適当な勘定科目を、次の解答群のうちから一つ選べ。

の解答群

① 開業費	④ 創立費
② 立替金	③ 支払手数料

問 2 資本準備金から株式の発行に要した費用を控除することは、企業会計原則の一般原則の一つである に反するものである。 に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

の解答群

① 継続性の原則
② 単一性の原則
③ 資本取引・損益取引区分の原則
④ 保守主義の原則

問 3 次の社債に関する文章を読んで、〔Ⅰ〕・〔Ⅱ〕に入るものの組合せとして正しいものを、下の解答群のうちから一つ選べ。 **セ**

また、**ソ** ~ **チ** に入る最も適当な勘定科目を、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

社債は、額面金額より低い価額で発行されることがあり、これを割引発行という。このとき、社債勘定の貸方には、〔Ⅰ〕金額で記入する。また、社債発行のために要した募集費用、金融機関への手数料などが発生した場合には、**ソ** 勘定の借方に記入する。

割引発行した社債の額面金額と払込金額との差額は、償還期までの利息の調整としての性格をもつと考えられる場合、償還期までの各会計期間に配分し、() 勘定の借方と **タ** 勘定の貸方に記入されていく。

社債の償還にはいくつかの方法がある。満期償還は、償還期日に〔Ⅱ〕金額で償還する方法である。また、抽せん償還は、償還期日前に償還する社債を抽せんにより決定して償還する方法であり、償還する社債が決定したときは、社債勘定から **チ** 勘定の貸方に額面金額で振り替える。その後、支払いを行ったときは、**チ** 勘定の借方に記入する。

セ の解答群

- | | | | |
|---|--------|-------|--------|
| ① | 〔Ⅰ〕 額面 | ————— | 〔Ⅱ〕 払込 |
| ② | 〔Ⅰ〕 額面 | ————— | 〔Ⅱ〕 額面 |
| ③ | 〔Ⅰ〕 払込 | ————— | 〔Ⅱ〕 払込 |
| ④ | 〔Ⅰ〕 払込 | ————— | 〔Ⅱ〕 額面 |

ソ ~ **チ** の解答群

- | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|-------|
| ① | 支払手数料 | ② | 租税公課 | ③ | 受取利息 |
| ④ | 社債発行費 | ⑤ | 社債利息 | ⑥ | 社債償還益 |
| ⑦ | 社債償還損 | ⑧ | 未払社債 | ⑨ | 社債 |

簿記・会計

問 4 次の **資料** および文章は、平成×5年度における佐賀商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)の繰越利益剰余金に関するものである。
ツ、**ト**～**ネ**に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。また、**テ**に入る最も適当な勘定科目を、下の解答群のうちから一つ選べ。

資料 平成×5年度の繰越利益剰余金勘定

繰越利益剰余金					
6/28	利益準備金	ツ	4/1	前期繰越	100
"	テ	30	3/31	損益	60
"	新築積立金	()			
"	別途積立金	()			
3/31	次期繰越	()			
		160			

平成×5年6月28日の株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。なお、利益準備金は、会社法令の規定にしたがって計上しており、株主総会における決議前の資本準備金と利益準備金の合計額は¥145であり、資本金の額は¥600であった。

利益準備金¥**ツ**、配当金¥30、新築積立金¥10、別途積立金¥5

また、平成×5年度の決算における損益勘定の収益総額は¥**ト****ナ****ニ**、費用総額は¥500、法人税等の額は¥30であった。このとき、決算整理前の仮払法人税等の勘定残高は¥**ヌ****ネ**であり、決算整理後の未払法人税等の勘定残高は¥10であった。

テの解答群

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| <p>① 未払法人税等</p> <p>② 未払配当金</p> | <p>① 未払利息</p> <p>③ 資本準備金</p> |
|--------------------------------|------------------------------|

簿記・会計

第2問 単一仕訳帳制度を採用している個人企業の長野商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、商品Aと商品Bの2種類を取り扱っている。なお、補助簿として仕入帳、売上帳、商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳を用いている。

次の資料1～資料5にもとづいて、15ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。また、保証債務について考慮する必要はない。

[解答記号 **ア** ~ **ハ**] (配点 30)

資料1 平成×5年5月中のすべての取引を記入した仕訳帳

		仕 訳 帳			
平 成 × 5 年	摘 要	元 丁	借 方	貸 方	
5	7 (ア)	前ページから ()	182,450 イ ウ 0	182,450	
	三重商店に売り渡し				
8	()	()	()	()	
	7日に三重商店に売り渡した商品の値引き				
"	(仕 入) 諸 口 (エ) (買 掛 金)	省	1,450	500 950	
	東京商店より仕入れ、内金と掛け				
10	(買 掛 金) (仕 入)		()	()	
	8日に東京商店より仕入れた商品の返品				
14	諸 口 (売 上) () (売 掛 金)	略	() オ カ 0	640	
	静岡商店に売り渡し、同店振り出しの小切手と掛け				
21	(キ)		700	700	
	三重商店に売り渡し、当店振り出しの小切手受け取り				
25	(仕 入) 諸 口 (買 掛 金) ()		()	()	10
	山梨商店より仕入れ、引取運賃現金払い				
29	() (ク)		300	300	
	東京商店より仕入れ、他店振り出しの約手裏書き				

資料2 平成×5年5月の総勘定元帳(一部)

買掛金		売上	
3,760	4,530	450	6,800
5/10 仕入 ()	5/8 仕入 950 25 仕入 550	5/8 売掛金 ()	5/7 () 570 14 諸口 640 21 () 700

(注) 日付のない金額は、4月末までの記入の合計額である。

資料3 平成×5年5月中の仕入帳と売上帳(一部)

仕入帳			
平成×5年	摘要	内訳	金額
5/8	東京商店 内金・掛け 商品A ()個 @¥() 商品B ()個 @¥115	760 ()	1,450
10	東京商店 掛け返品 商品B ケ 個 @¥115		()
5/29	東京商店 約手裏書き 商品A 4個 @¥()		()
5/31	総仕入高	コ, サシ 0	()
"	仕入返品高	()	()
"	純仕入高	()	()

売上帳			
平成×5年	摘要	内訳	金額
5/7	三重商店 掛け 商品A ()個 @¥95		()
5/21	三重商店 当店振り出しの小切手 商品A 7個 @¥100		700
5/31	総売上高		1,910
"	売上値引高		()
"	純売上高	ス, セソ 0	()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

簿記・会計

資料4 平成×5年5月中の商品有高帳(すべて)

商品有高帳

(移動平均法)

商品 A

単位：個

平成 ×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1 前月繰越	8	70	560				8	70	560
	7 三重商店				6	夕子	()	2	()	140
	8 東京商店	10	()	()				12	ツテ	()
	21 三重商店				7	()	()	5	()	()
	29 東京商店	4	()	()				9	()	()
	31 次月繰越				9	()	()			
		22		1,620	22		1,620			

(先入先出法)

商品 B

単位：個

平成 ×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1 前月繰越	2	115	230				2	115	230
	8 東京商店	ト	115	()				8	115	920
	10 東京商店返品				()	115	()	6	115	690
	14 静岡商店				4	115	460	2	115	230
	25 山梨商店	()	()	560				2	115	230
	31 次月繰越				2	()	()	5	()	()
					5	ナニ	()			
		()		1,480	()		1,480			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料5 平成×5年5月中の売掛金元帳と買掛金元帳(すべて)

売掛金元帳

三重商店

静岡商店

5/1 前月繰越 ()	5/8 売上値引 20	5/1 前月繰越 180	5/31 次月繰越 460
7 売り上げ ()	31 次月繰越 750	14 売り上げ 280	
770	770	460	460

買掛金元帳

東京商店

山梨商店

5/10 仕入返品 ()	5/1 前月繰越 ㊦0	5/31 次月繰越 ()	5/1 前月繰越 430
31 次月繰越 ()	8 仕入れ ()		25 仕入れ ㊦0
()	()	()	()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

問 1 資料 1 の ア , エ , キ ・ ク に入る最も適当な勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア , エ , キ ・ ク の解答群

① 前払金	④ 前受金	⑦ 未払金
② 未収金	⑤ 当座預金	⑧ 支払手形
③ 現金	⑥ 買掛金	⑨ 売掛金
④ 受取手形	⑩ 売上	⑪ 仕入

問 2 資料 1 の イ ・ ウ , オ ・ カ , 資料 3 の ケ ~ ソ , 資料 4 の タ ~ ニ , 資料 5 の ヌ ~ ハ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記・会計

第3問 個人企業である香川商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、本店の他に支店を一つ設けており、支店の会計は本店の会計から独立している。なお、本店は、商品を原価で支店に送付している。香川商店に関する次の資料1～資料3にもとづいて、18ページから19ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。また、()は各自で考えること。

(解答記号 **ア** ~ **ホ**) (配点 30)

資料1 平成×5年11月30日における本店の残高試算表

残 高 試 算 表			
平成×5年11月30日			
借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
811	(現 金	
919		当 座 預 金	
418		売 掛 金	
		貸 倒 引 当 金	2
194		有 価 証 券	
410	省	繰 越 商 品	
2,000		建 物	
		建物減価償却累計額	ア イ 0
800		備 品	
		備品減価償却累計額	()
()		支 店	
		支 払 手 形	130
		買 掛 金	375
		借 入 金	1,200
		資 本 金	4,265
	略	売 上	2,868
1,844		仕 入	
()		給 料	
86		旅 費	
12		消 耗 品 費	
28)	支 払 利 息	
()			()

資料2 平成×5年12月中の本店のすべての取引

- 10日：本店は、徳島商店に対する売掛金¥68の回収として、同店振り出しの小切手を受け取った。
- 11日：本店は、支店の売掛金¥17を現金で回収し、ただちに当座預金に預け入れ、支店はこの通知を受けた。
- 15日：支店は、本店の従業員の旅費¥7を現金で立て替えて支払い、本店はこの通知を受けた。
- 20日：本店は、支店に商品¥200(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。
- 25日：本店は、高知商店に対して商品を¥61で売り渡し、代金はかねて本店が振り出していた約束手形を受け取った。
- 30日：本店は、支店に現金¥85を送った。

資料3 平成×5年12月31日における本店の決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高は、¥398である。
- (2) 売掛金の期末残高に対して、2%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (3) 建物は、すべて平成×3年1月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は10年)で減価償却を行う。
- (4) 備品は、すべて平成×4年1月1日に取得したものである。定率法(償却率0.25)で減価償却を行う。
- (5) 有価証券は、売買目的で保有する株式である。決算日の時価は、¥202である。
- (6) 本店の借入金は、すべて平成×5年9月1日に年3%の利息(借入期間は1年、利払日は2月末日と8月末日)で借り入れたものである。なお、未払利息の計算は月割りとする。
- (7) 消耗品の未使用分は、¥4である。

簿記・会計

問 1 本店の決算においては、資料1～資料3にもとづいて、下の本店損益計算書と本店貸借対照表が作成された。次の(1)・(2)に答えよ。

- (1) 資料1の **ア**・**イ**，本店損益計算書の **ウ**～**オ**，**キ**～**シ**，本店貸借対照表の **ス**～**ヌ** に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。
- (2) 本店損益計算書の **カ** に入る最も適当なものを，次の解答群のうちから一つ選べ。

カ の解答群

① 商品	④ 期首商品棚卸高
② 期末商品棚卸高	③ 有価証券評価益

本店損益計算書

平成×5年1月1日から平成×5年12月31日まで

費用	金額	収益	金額
()	()	売上高	2,929
当期商品仕入高	1, ウ エ オ	カ	()
売上総利益	1,273		
()	()		()
給料	578	売上総利益	1,273
旅費	キ ク	()	シ
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
消耗品費	ク		
支払利息	コ サ		
当期純利益	227		
()	()		()

本店貸借対照表

平成×5年12月31日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	()	支払手形	テ ト
当座預金	9 ニ セ	買掛金	375
売掛金 ()	()	未払利息	()
貸倒引当金 ツ	()	借入金	1,200
有価証券 ()	()	資本金	4,265
()	()	()	ナ ニ ノ
消耗品	()		
建物	2,000		
減価償却累計額	()		
備品	800		
減価償却累計額	ク チ ツ		
支店	1,561		
()	()		()

問 2 資料 2 の平成×5年12月30日の取引が支店に未達であった。このとき、支店における本店勘定の金額は¥1, である。なお、支店から本店への未達事項はない。～に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 支店は決算を行い、当期純損失¥24を計上した。次の(1)・(2)に答えよ。

(1) この報告を受けた本店は、次の仕訳を行う。に入る最も適当な勘定科目を、下の解答群のうちから一つ選べ。

(借) () 24 (貸) 24

の解答群

① 資 本 金 ② 損 益 ③ 本 店 ④ 支 店

(2) 上の(1)での仕訳により、本店は、この時点での本支店をあわせた当期純利益が¥であることを知ることができる。～に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。